

時を重ねる

カンボジアに「桜中学校」

TBSの人気ドラマ「3年B組金八先生」の脚本を25年間にわたり書き続けた。その一方で、カンボジアでの学校建設や教育支援などを行う認定NPO法人「JHP・学校をつくる会」(東京)の代表理事として活動を続ける。

ばと考えたんです。内戦後でもないカンボジアを訪れ、芸術や宗教、教育が弾圧されて学校がない、あっても機能していないことに衝撃を受けた。これからの子どもたちのために、学校を作りたいと心底思いました。仲間たちと3050棟の校舎を建て、音楽や美術教師の養成、教材支援もしています。金八先生の舞台と同じ名前の「桜中学校」も向こうに作っただけです。

映画の制作現場でスクリーンライター(記録係)として働き、32歳で脚本家に転身。その間、結婚、出産、離婚を経験した。

脚本家 小山内 美江子さん 87

映画監督になりたくて映画学校に通ったものの、当時、まだまだ女性は助監督にもなれなかった。生後4か月の息子を育てながら家でできる仕事、と選んだのが脚本家の道です。特別な勉強はせずとも、脚本が作品になる過程で働いてきたことを頼りに、来る仕事はすべて引き受けました。

金八先生の頃は、他局の大人気ドラマ「太陽にほえろ」と同じ時間帯で、TBSからは「視聴率にこだわらず、いいものを作ってほしい」と依頼された。息子が高校に入ったばかりで、受験の重圧は我が家に来る息子の友人の悩みをよく聞いていたこともあって身に染みていました。死を選んだ中学生の痛ましい新聞

平和のため何かできないか考えた

記事も目にして、その味方になるものなら書けると思った。息子の友人が話していた学校や先生、親への文句など、材料はいくらでもありました。息子の友人とは今も交流があります。会への寄付を長年続けてくれる人や、企業の管理職になり、「会社の仕事を通して、何かお役に立ちたい」と言ってくれる人もいます。金八先生で描いた時代と今で決定的に違うのは、スマートフォンが存在。学校でのいじめもより陰湿になっている気がする。インターネットの世界では、どこまでいいか、どこからは絶対だめなのかの線引きがなまじ進んで、おそろしさを感ずります。だから、しっかりと話を聞く大人が必要だし、評価してあげることも大事なんです。

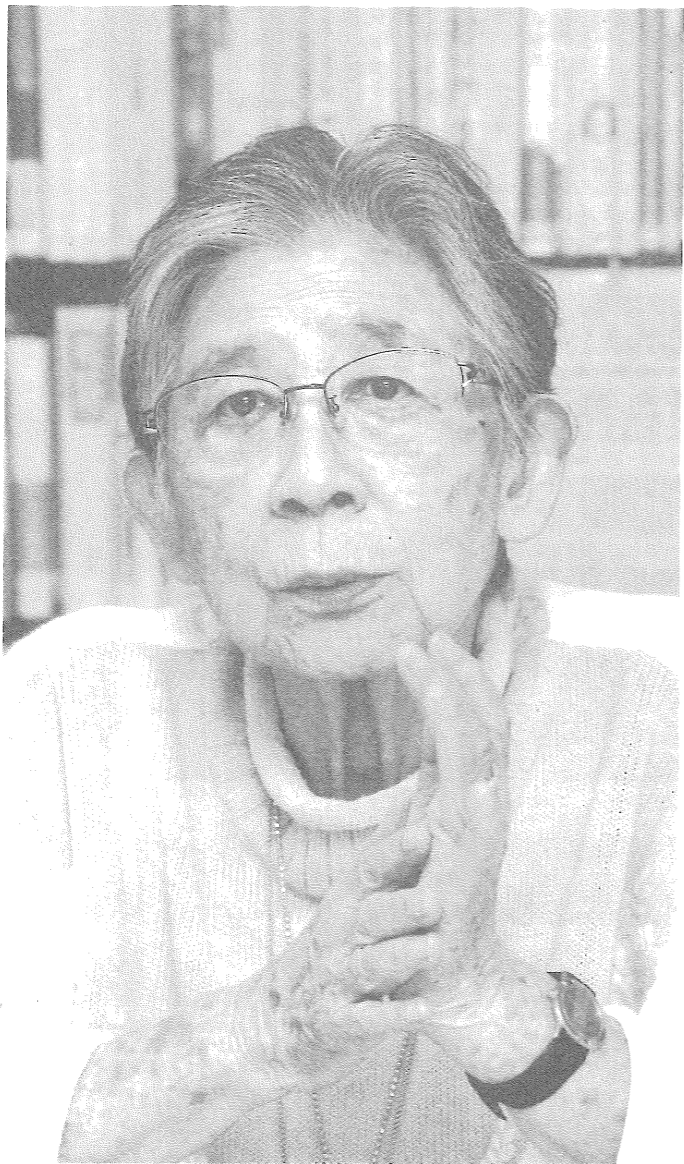
世代をつなぐことへの思いは強い。会の活動でも学校建設とともに柱に据えるのがカンボジアへの大学生らボランティアの派遣だ。

延べ1000人以上が活動の視察や校庭でのボランティアを経験。学生時代に参加した男性が「我が子にも体験させたい」と言っていて、今年娘さんが参加してくれました。まじめに活動してきてよかった。世界に出て動く子も多い。私は気持ちの上では相変わらず好奇心旺盛で、いろいろなことを見たり聞いたりしたいけれど、87歳ですがに飛び

回れない。代わりに子どもたちが教えてくれます。会を続けることは責務で

す。小山内からじかに活動報告の手紙が来たことを喜んでもらってるよう、脚本家としての「賞味期限」を延ばしたい。オフアはいつかいたたいており、あと一本、若い人がはじけるようなドラマを書きたいな。

(聞き手・辻本洋子)



「今年、自宅を引っ越した。周囲から止められていたのに、段ボール箱を運ぼうとしてぎっくり背中になっちゃった。じっとしていられない性分なのよね」(東京都港区で)＝安齋晃撮影

おさなみ・みえこ 1930年、神奈川県生まれ。51年から映画制作に参加し、62年から脚本家として、NHK「マザーちゃん」「徳川家康」などを手がける。

93年に「JHP・学校をつくる会」を設立。95年度橋田賞を受賞。著書に「我が人生、筋書き無し」など。長男は俳優で映画監督の利重剛さん。

くらし 家庭